

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第二年 第二課 第一週
単元	詩篇と預言者
テーマ	主の教えを喜ぶ
タイトル	主の教えをよろこぼう
テキスト	詩篇1篇
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇1:2-3
AG 日曜学校教案参照箇所	
<p>□導入 興味を起こす質問をしましょう</p> <p>例:草花がイキイキと育つには、水が必要です。では、わたしたちがイキイキと育つには、何が必要でしょうか？</p> <p>□ポイント1 神さまに背いて生きる人たちと同じように歩まない人は幸いです(1節)</p> <p>1節では、「悪者」「罪人」「あざける者」のように生活しない人は幸せだ、と説明されています。「正しいことをする」のと「悪いことをしない」のでは、前者の方が積極的です。ですから、「悪の道に従わない生活」というのは、「みことばに従う生活」と比べると、消極的に聞えるかもしれません。しかし、<u>神さまに背いて生きる人たちと同じように歩まないことは、それだけで、幸せになるために充分有効な方法と言えるのです。もし、あなたがイエスさまと出会っていなかったら・・・、もしあなたが聖書を知らなかったら・・・、どんな生き方をしたでしょうか？人の悪口を言ったり、人のものを勝手に取ったり、いじめたり、ケンカをしても謝らなかつたり・・・それが当たり前だったかもしれません。ケンカや悪口ばかりの人生よりも、少しでもそれを減らして生きる方が、ゼツタイ幸せです。神がそれを喜ばれ、祝福してくださるからです。</u></p> <p>☆もし、あなたがイエスさまを信じていなかったら、どんな悪者になっていたか・・・！？想像してみよう。</p> <p>☞「悪者」「罪人」「あざける者」とは、(それぞれ違う特徴の違う3者を表しているというよりも、)神の命令に背き、自己中心で傲慢な生き方をする人のことを、色々な言い方で表現しているのだと考えられます。</p> <p>☞(4節)悪者は「風が吹き飛ばすもみがらのようだ」と書いてあります。麦を空中に投げると、軽いものは風にとばされ、重いものは下に落ちます。昔の人は、それで良い中身のある麦と中身の無いもみがらを選別しました。もみごらは軽くて不要なものです。農夫が作った作物の一部でありながら、農夫によって捨てられるものです。神に背いて生きていますと、中身が無いもみごらのような人になってしまいます。悪者は人間社会で信用されません(正しい者のつどいに立てない)。悪者は、裁判所や政府のような正義の場で居場所がなく、認知されません(さばきの中にたちおおせず)。ですから、神に背いて生きる人たちと同じように歩まない人は幸いです。</p> <p>□ポイント2 いつも主の教えを喜びとし、その教えを口ずさむ人は幸いです(2節)</p> <p>2節には真に幸いな人が、積極的に取り組むべきことが書かれています。ヘブル語の「トラー」はしばしば「律法」と訳され、モーセ5書をさします。しかしここでは、「トラー」が「主の教え」と訳されています。この「トラー」という語には、基本的に「神が人間に与えた人生の案内・指導(instruction)」という意味があります。ですから、この「<u>主の教え</u>」は律法の書だけでなく、<u>聖書全体</u>ととらえるべきでしょう。聖書</p>	

は、創り主なる神が人間を創った意味に沿って書いた案内書・指導書のようなものです。その根源的な意味を無視して過ごせば、人生が虚しいものになるのは当然です。真に幸せになるには、「主の教えを喜びとする」ことが、カギなのです。では、聖書の教えを喜べるようになるには、どうしたらよいのでしょうか？「口ずさむ」とは「昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることをすべて忠実に守ること」です(ヨシュア1:8)。つまり心と頭で深く思い巡らし、実践することです。ですから、聖書の教えを喜べるようになるには、みことばを日常的に、ディポーションし、心に留め、実践することが必要です。「口ずさむ」ことによって、みことばの喜びが発見できるのです。

☞ 箴言に「わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。」とあります。そしてそうすれば、長生きと平安が増し加えられると約束されています(箴言3:1-2)。

□ポイント3 その人は、水路のそばに植わった木のように、自然に豊かで幸せな人生を送ります(3節)

3節には、前節の「主の教えを喜びとし、それをいつも口ずさむ人」が、それではどんなに幸せなのか？ということが、木の比喩を用いて表現されています。木が生茂るか枯れるかは、その環境(特に水が供給されるかどうか)にかかっています。「植わった」は、原語では、自然に植わるのではなく、違う場所から植え替えられたという意味が入っています。ほとんど雨の降らない乾燥した土地から、いつも豊かに水が流れている灌漑用水路のそばに移植された木は、間違いなく生き生きとすることでしょう(パレスチナは非常に乾燥しています)。そのように、主の教えに従う人は、間違いなく、イキイキと幸せになるのです。

☞ この比喩は、単に義人の幸福と繁栄のようすを表しているだけではありません。聖書の深い真理をしつかりと伝えています。それは、水が豊かに供給されれば、自然におのずから木が生茂るように、主の教えに従う人は自然の結果として幸せになるということです。正しい人が幸せになるのは報酬や見返りではありません。すべてを創りすべてを与える主のガイドラインに従って生きるから、自然の結果として栄えるのです。(スポーツでも、インストラクターに従えば、自然に上達するのと同じです。)

☞ (5~6節) 義人とは主を恐れる者であり、その畏敬を日常生活に反映させる人です。その人は悪を遠ざけ主の教えからいかに生きるべきかを学び、人間の能力におごることがありません。対照的に、神を否定し自己中心に生きる人の最終的な運命は、滅びです。例え一時的には咲き誇っても、それは、はかない命なのです。しかしキリストはどんな悪者も愛してくださり、枯れた木さえも生き返らせることができます。そして永遠の命を与えてくださいます。そしてみことばに従って歩むならば、何をしても栄えると約束されています。

☞ クリスマスは「何をしても栄える」のですが、その実は「時が来ると」結ばれます。その「時」は、神が備えておられる一番良いタイミングです。私たちは、ただ「主の教え」に従い、罪から離れた聖い生活をして、その時を待つべきです。

□結論 みことばに従う人は、幸せになります *暗唱聖句を読み上げます*

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) 草木にとって水は「命」です。水があれば自然と木が豊かに育つと同じように、すべてを造り、すべてを与えてくださる神さまの教えに従えば、自然に幸せになります。幸せに生きるためのガイドラインとして、聖書が与えられていることを喜びましょう！神さまのみことばをいつも口ずさみましょ。いつもディポーションをして、深く味わいましょ。そうすれば、さらに喜びがわいてくるよ！

例2) みことばを口ずさむということには、それを実践することも含まれています。みことばを聞くだけで、生活の中でそれを無視していたら、あなたは「もみがら」もしくは「砂の上に建てた家」(マタイ7:26-27)。日曜日だけでなく、毎日みことばを行なう人になろう！そうすれば、結果として、あなたは幸せになります。まず何から始めますか？年の初めの決心をしよう！

例3) イエスさまも狭い門と広い門のたとえで、2つの生き方があることを示されました(マタイ7:13、ルカ13:24)。みことばに従うか、罪の心に従うか、選ぶのはあなたです！私たちは毎日、色んな場面での選択をしなければなりません。まず、クリスマンになって幸せだあ〜と感謝しよう。そして、いつも主の教えの方を選ぼう！「そうすれば、あなたは何をしても栄える」って最強の約束だね！

教師ノート

週課 第二年 第二課 第二週

単元 詩篇と預言者

テーマ 主を信頼する

タイトル 主はわたしの羊飼い

テキスト 詩篇23篇

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)
詩篇23:1

AG 日曜学校教案参照箇所
小下3巻4題10課

メモ(情報・例話など)

詩篇150の詩の中でも23篇は、これまで世界中で最も愛されてきた詩の1つと言えるでしょう。1節の「主は私の羊飼い」は、この詩全体のテーマです。「羊飼い」の例えを使うことで、世界中のどの時代の人にもわかりやすく、シンプルかつ奥深く、「いつも守り・与えてくださる神の愛への信頼と感謝」を表現しています。荒野をさまよったイスラエルの民を守り導いてくださった神への信仰が、この詩の背景にあることは言うまでもありません(詩篇106参照、申命記8:2~4など参照)。また、「良い羊飼い」(ヨハネ10:11)であるイエスを理解する上でも、詩篇23は非常に助けとなります(1ペテロ2:25、5:4参照)。

□導入 興味を起す質問をしましょう。

例1: あなたにとって、未来に起こりそうなことで不安なことはなんですか(病気、事故、親の死、テスト、イジメ、など)? また、自分の足りないところを見てクヨクヨしてしまうのはどんなときですか(学力、運動能力、身長、お金、など)? 将来の危険からあなたをいつも守り、必要なものは全て与えると約束してくれる人がいると思いますか?

例2: 羊飼いの仕事ってどんなことか分かりますか?(エサをあげる、草のある場所に連れて行く、オオカミから守る、など)。あなたには、羊飼いが必要ですか?

□ポイント1 神さまが必要なものを与えてくださるので、私たちはいつも満ち足りることができます(1-3)

聖書の中で、神を羊飼いに、人間を羊に例えた箇所は数多くありますが、ここでは特に、主は「私の」羊飼いと表現されています。神は私たちと個人的な関係を持ってくださるのです。羊は、おとなしく、従順ですが、弱くて(外敵に対してほとんど無力)、道に迷いやすいのが特徴です。神を羊飼いに例える場合、人間は羊です。人間も、羊のように無力であることを自覚すべきです。神に依存しなければ生きていけません。しかし、全能の主が守り養ってくださる限り、私たちは乏しいことはありません。羊飼いは、羊が食べるためのおいしい草が生えている場所(緑の牧場)に連れて行き、羊が安全に草を食べられるように、配慮します。また羊飼いは、羊を「いこいの水のほとり」にも導き、心と体をうるおし、元気を回復させてくれます。主は、私たちを正しい道(救いに至る道)に導いてくださいます。主はまさに、私たちのたましいを生き返らせてくださる救い主です。私たちが幸せになるように導いてくださいます。

☞ 子どもたちにとっての、困難・悩み・疲れ・ストレスは、おとなのそれとは違います(例えば、いじめ・仲間はずれ・悪口、変なあだ名で呼ばれる、分数の計算ができない、マラソンが苦手、宿題が多すぎる、先生が怖い、両親の帰宅が遅い、中学生になること・・・など)。子どもたちは、常に他者との競争・比較にさらされています。また、いつも親・先生・友だちなどの評価を気にしているかもしれません。いじめ・仲間はずれ・悪口などが、いつ自分の身にふりかかって来るかわからないと不安に思っているかもしれません。子どもにとって、心も体も安心できる環境が失われつつあります。しかし教会は緑の牧場(安全・心

の食べ物で養われる・リラックスできる・のびのび遊べる)です。また教会は、いこいの水のほとりです(聖霊が疲れと渴きをいやしてくださる・平安とゲンキをくださる・心も体もリフレッシュできる)。

□ポイント2 神さまがともにいてくださるので、私たちは何も恐れる必要がありません(4)

人生には、困難・悩み・苦しみにあうことがあります。とても悲しい出来事や、どんなにがんばっても解決できない問題が起こることがあります。「死の陰の谷」とは、死が押し迫るような恐怖のことでしょう。どんな恐ろしい悪が迫ってきても、何も恐れる必要はありません。主が私たちとともにいてくださるからです。実際に、パレスチナには狭く陰しく暗い谷があり、羊が猛獣に襲われやすい場所であったと思われまます。そのため、羊飼いは、通常2つの道具を持っていました。1つは「むち」で、猛獣を追い払うため、もう1つは「つえ」で、羊をガイドしコントロールするためです。同様に神は、私たちが危険から守り、正しい道に導いてくださいます。

□ポイント3 これからもずっと、神さまが私たちを守り助けてくださいます(5-6)

5節には、さらに具体的に、神が私たちをどのように守り助けて下さるかが書かれています。敵から逃げて、だれかの家に逃げ込んで、かくまって保護してもらった人と、その家の主人を連想して読むとよく理解できるでしょう。ダビデは、迫り来る敵アブシャロムから逃げているとき、バルジライら3人に、豊かな食事でもてなされました(II サムエル17:27-29)。神は、敵がいるようなところでも、安心して食事できるほど、確実に保護してくださいます。ダビデもその時は、うれしくて感激したでしょう。「油をそそぐ」のは、主人が客人に注ぐもので、喜びの表現です。「杯があふれている」ということは、主に歓迎されていて、神と親しい関係であり、その人生が祝福で満たされているという、感謝の表現です。6節でも歌われているように、神とともにいると、神の恵みはいつもいっぱいです。敵から追われるのではなく、愛と恵みに追われるのです！そして私たちはずっと神の家族にさせていただけるのです。

□結論 神さまを信じている人は、乏しいことも恐れることもありません 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:あなたは、イエスさまを信じていても恐れや心配を持ち続けていませんか？確かに「災いを恐れませぬ」というのは、災い(事故・病気)やキライなもの(テスト・マラソン大会など)がなくなるわけではありません。でも、神さまがいるからダイジョブ！と今、信仰告白をしよう！イエスさまの愛を信頼すれば、何も怖くないよ。未来に起こるかもしれないことを心配したり、自分に足りないものを見てクヨクヨしたりしないで、イエスさまが何とかしてくれるって信じよう！そうすれば、喜びと勇気と希望がわいてきます。もちろんそれだけではなく、本当にイエスさまが、ミラクルパワーで、あなたを守り、必要なものはぜんぶ与えてくださいます。神さまを信頼する人には、必ず神さまの祝福があります。

例2:今あなたが心の中に持っている不安やクヨクヨの原因を、紙に書くか、教会の先生やお友だちに言ってみよう。そして「私は乏しいことはありません。わざわざを恐れませぬ。主が私とともにおられますから」と、祈ってみよう。

例3:神さまがいつも守ってくれている！いつも必要を満たしてくれている！って、感じる事ができない人もいますでしょう。その人は①神さまを体験できるように、どんどん求めていこう！どんなことでも大胆に祈ろう。ミラクルを体験すると、それが信頼と確信に変わります。②日常の恵みに「気付く」ようになろう！「今月は家族がだれもカゼをひかなかった」とか、「学校に一度も忘れ物をしなかつた」って気付いた時に、「神さまありがとう」ってお祈りしよう！神さまがいつも守り・必要を満たしてくれている！って、感じる事ができるようになるよ。

例4:イエスさまは羊に命を与えるために、命を捨てた羊飼いです。あなたはすでに「永遠の命」という一番大切なものをいただいています。それさえあれば、不安や心配はいりませぬ。それにあなたはいつまでも神の家族です。いつも神さまを礼拝することができます。そこで心のエネルギーとやすらぎを得ることができます。疲れと渴きはいつも満たされ、リフレッシュされます。喜んでイエスさまとともに歩むなら、愛と恵みがあなたを追いかけてきます！

教師ノート

週課	第二年 第二課 第三週
単元	詩篇と預言者
テーマ	信頼と守り
タイトル	ライオンの穴のダニエル
テキスト	ダニエル書6章
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ダニエル6:23
AG 日曜学校教案参照箇所	幼1巻1題1課、小下1巻4題9課、小上3巻5題7課
□導入	<p>紀元前6世紀イスラエルの民がバビロニア軍に捕らえられ、バビロンに強制移住させられていたところのお話です。ダニエルは、バビロンに連れて行かれたユダヤ人のひとりでしたが、知恵があり、謙遜で忠実な人だったので、バビロンの王に信頼され、出世しました。特に誰にも分からなかった夢の解き明かしをしたので、王に喜ばれました。</p>
□ポイント1 ダニエルは、神さまにも仕事にも忠実な人でした(1-10)	<p>バビロンの国ではダリヨスが新しい王になりました。まず、ダリヨス王は、国民が反乱を起こさないように、また税金をちゃんと納めるように、国内のそれぞれの地域を治める太守(地方総督)120人を任命しました。そしてその120人が不正を行なわないように管理統制する大臣を3人置きました。ダニエルのうちには神のすぐれた霊が宿っていたので、ダニエルは他の2人の大臣より格段に賢く立派でした。ダリヨス王は、ダニエルを総理大臣に任命しようとするほど、特別に愛し信頼していました。他の大臣や太守たちは、そのことを非常にねたみました。そこで彼らは、何とかしてダニエルを陥れようとたくらみましたが、ダニエルは忠実で、彼に何の怠慢も欠点も見つけれませんでした。そこで、太守や大臣たちは、ダニエルの信仰深さを利用して、彼を陥れるしかないと考えました。彼らは王に、1か月間ダリヨス王だけが神としてあがめられなければならないという法令を制定するよう願いました。</p> <p>☞ダニエルは忠実で賢かったため、他の大臣や太守は、賄賂をもらうなどの不正ができなかったのかもしれませんが、また、ダニエルはユダヤ人(バビロンの人からみれば外国人)でした。それらのことが、彼らのねたみと怒りを増大させたという推察もできます。</p> <p>☞ダニエルが普段から神と人に対して忠実であったことを、強調して語りましょう。ダニエルは、そばで働いているみんなから徹底的に探られたのに、王に告げ口する口実さえ見つけられませんでした。これは、「すぐれた神の霊」の助けによるとしか考えられません。主を恐れるものに神はあわれみ深いのです。ダニエルのような人は、人にも愛され・信頼され、幸いな人生を送ることができます。</p>
□ポイント2 ダニエルは、陰謀にはめられ、ライオンの穴に入れられました(11-19)	<p>大臣や太守たちは、ダニエルが1日に3回、エルサレムの方に向かってお祈りを欠かさないことを知っていました。信仰はダニエルが一番大切にしていることだからこそ、その習慣は変えられないだろうと考え、それを弱点として逆手にとる作戦です。ダニエルは、その法律が発令されたことを知りました(もしかしたら、それが太守たちの陰謀だったことにも、気付いた? かもしれません)。しかし、彼は、迷ったり、おびえたりすることなく、「いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝」しました。策略をくわだてた人たちは、「しめた! 」と思ったことでしょう。彼らは早速、それを王に報告しました。王は</p>

法律をつくったことを非常に後悔し、ダニエルを救おうと、一日中奔走しました。しかしもう法律を取り消すことはできません。ダニエルはライオンの穴に投げ込まれてしまいました。王がホンモノの信仰を持っていたかどうかは分かりませんが、ダニエルに救われてほしいとの一心で「神があなたをお救いになるように。」と言いました。出入り口は封印されました。この封印は、ダニエルが逃げられないようにするためであり、誰かがダニエルを助けないようにするためです。しかし封印があるのにダニエルが助かったとしたら・・・ダニエルを救ったのは神だ！と証明することになります。王は待っている間、食べることも、休むこともしませんでした。

☞ 日に3度おいのりする習慣について（Ⅰ列8:48、Ⅱ歴6:38参照）。祈りは人に見せるためにするものではありません（マタイ6:5-6）。しかし、このときダニエルが隠れて祈ったとしたら、それは神よりも王を恐れていることの表れとなってしまいます（使徒4:18-20）。ダニエルはただ神に従ったのです（王に反逆したわけではありません）。ダニエルは、生ける神がダニエルの状況をご存知であるはずだという確信に満ちていたのです（事実、神はこの時すでに、ダニエルを救い出す方法さえ段取り済みであったはずです！）。この時、お願いの祈りではなく、感謝の祈りをしているダニエルの信仰を見習いたいものです。

☞ 王さまなら、自分の発令した法律を変えることができるのではないかと疑問をもつ子どもがいるかもしれませんが、王が自分で発令した法を、自分ですぐに取り消したり、簡単に例外をつくったりすると、国が混乱してしまいます。一度制定した法は、絶対に変更できないという仕組みは、社会の秩序を保つためには有効ともいえるのです。

□ポイント3 ダニエルが神さまを信頼していたので、神さまはダニエルを守られました（20-28）

王は夜が明けると急いでダニエルに呼びかけました。するとダニエルは、元気に・しかも落ち着いた・礼儀正しい口調で、自分が無事であることを報告しました。ダニエルが守られたのは、彼が神に信頼していたから（23節）です。王はダニエルを告発した者たちを、罰として、その妻子とともに、ライオンの穴に入れました。するとたちまち骨まで噛み砕かれてしまいました。さらに王は、「私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。」と全国に書き送りました。

□結論 ダニエルは、ライオンの穴に入れられても、神さまを信頼していたので、神さまに守られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

例1)ダニエルのように、神さまを信頼する人を、神さまは必ず守ってくださると信じよう。神は生きておられます—それはただ死んでいるか生きているかというだけでなく—活動している、パワフルで、全能で、わたしたちの人生にかかわりを持ち、善と悪を見分け、祝福を与えてくださるという意味です。どんな時も、神さまが守ってくださると信頼しよう。普通に考えたら、ダニエルが助かる確率は0%でした。それでもダニエルは神さまを信頼したのです。（確かに、助けられない時もあります。でも、どうせ助かるはずがない・・・とあきらめるのではなく、ダニエルのような体験をしたい！と大胆に祈りましょう。1回でもミラクルを体験して、それを信じ続けることが大切です。）

例2)ダニエルのように、だれに何と言われても、神さまを礼拝することを第一にしよう。あなたは、教会の外でも神さまを第1にできていますか？お友だちにバカにされそうになったら、信仰より自分が楽な方を選んでしまいませんか？（食事の前にお祈りをしない、他に楽しいことがあったら礼拝を休む、等）。

例3)ダニエルのように、忠実で、おともだちから信頼される人になろう。先生、牧師先生、両親に従うことを通して神さまに従おう。それは、神さまが与えた権威だからです。神さまに忠実ということは、人にも忠実ということ。あなたが、神さまに仕えるように、両親や先生に仕えていれば、あなたはみんなから信頼され、祝福されます（ダニエルが総理大臣になったように）。あなたの両親や先生は、イエスさまを信じていないかもしれませんが。だからといって、その人に従わなくて良いということにはなりません。ダニエルは異教の国の王にも忠実でした。ライオンの穴に入れられた後でさえも、王に礼儀正しく・穏やかに接しました。クリスチャンでない人を裁くのではなく、誠実に接しましょう。

教師ノート

週課	第二年 第二課 第四週
単元	詩篇と預言者
テーマ	神の召しと愛
タイトル	魚にのみこまれたヨナ
テキスト	ヨナ1章～4章
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第二ペテロ3:9
AG 日曜学校教案参照箇所	幼1巻1題12課、小下1巻4題2課

メモ(情報・例話など)

神さまはどんな人も悔い改めるように願っておられるのです！

ヨナが、神の召しから逃れようとしたのは、ヨナがユダヤ人以外の民族が救われることを、不快に思ったからです(ニネベ宣教の困難や迫害から逃げたのではありません)。私たち人間はみな、ヨナと同様に、偏向で嫉妬心が強く、狭量な者です。それに対して、神はなんとあわれみ豊かで、寛容と忍耐に満ちておられるのでしょうか！神はどんな人にも救われて欲しいと願っておられるのです。子どもたちに非常に人気のあるヨナのストーリーを、楽しく、かつ正しく伝えましょう。

□導入 興味を起こす質問をしましょう。

小魚をパクパク食べるのが好きな人はいますか？逆に魚にパクッと飲み込まれたことがある人は・・・？今日は魚に飲み込まれたヨナさんのお話だよ。

□ポイント1 神さまはヨナにニネベで預言をする使命を与えられましたが、ヨナは逃げようとして(1章)

神はヨナに、「立って、悪の増大するニネベという巨大都市に行き、その民に向かって罪を悔い改めるように叫びなさい」との使命を託されました。しかしヨナは、その命令に背き、主から逃れようとして、船でタルシシュへ向かいます。ヨナがニネベの異教の民に預言を伝えると、彼らが悔い改めて、神に救われるかもしれません。ヨナはそれがイヤだったのです(ヨナは、神に愛されているのは、ユダヤ人だけだと思っていました)。神は、大自然を動かして、ヨナに迫ります。激しい嵐によって船が難破しそうになったので、船員たちは必死でした。クジが当たったので、人々はヨナを追及しました。ヨナがヘブル人だと分かると、人々は嵐の原因がヨナであると確信し、恐れました(イスラエルの神の偉大さは、異教の国の人々にも知られていたのでしょうか)。そこでヨナは自分を海に投げ入れるようにと言いました(抵抗をあきらめたのか、自分を犠牲にして他の人を助けようとしたのかは不明ですが)。ヨナが海へ投げ込まれると、たちまち海は静かになりました。主は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませました。

📍ニネベ: ティグリス川上流の巨大な都市。アッシリア王国の首都。

🎲くじについて: 古代の人々は神意を知るために、くじや占いを利用しました。聖書の中でも、人々がくじを利用する場面は何度も登場します(例=民数記27:21、エズラ2:63、マタイ27:35、使徒1:26など)。ヨナ1:7では、異教的な発想でクジを使っていますが、全能の神は、それさえも用いて御心をあらわされました。神はくじを通して答えを与えることも、与えないことも、どちらもおできになる方です。子どもたちには、祈りとみことばによって御心を求めるべきことを教えましょう。

☆みんなで自由に想像して、発表してみよう！①ヨナはどうして、船が難破しそうなのに、船底で寝込んでいたのでしょうか？(神がヨナのために嵐を起しているとかわかっていて・とことん神に逆らおうとする姿勢・ニネベに行くくらいなら死んでもイイという開き直った態度・・・など) ②魚のお腹の中は、どんな居心地か、想像してみよう(暗い・くさい・ヌルヌル・・・など)

□ポイント2 ヨナは神さまがニネベを滅ぼすのをおやめになったことに対して怒りました(2-3章)

ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいました(前章17節)。神は、不従順であったヨナを、助けてくださったのです。それは、彼を悔い改めに導くためでもありました。ヨナは海に入れられて、すぐに魚に飲み込まれたわけではありません。深く波にもまれて沈み、海底の草・海底山脈の下でかんぬきで閉じられたように動けなかったようです(5-6節)。そこから救われ、魚の腹の中に入れられたヨナは、真心からの悔い改め・感謝・決心の祈りをしました。その祈りに応え「主は、魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させ」ました。その後、神は再びヨナに召しを与えられました。彼は今度こそ、「主のことばどおり」ニネベへ行きました。そして、ひたすら1日中歩き回り、「神がこの町を滅ぼされる」と叫びました。すると、ニネベの町の全員に驚くべき悔い改めが起こりました。そして王が布告を出して、獣・家畜に及ぶまで、悔い改めを命じました。神は、彼らが悪の道から立ち返るために真剣に努力している心をご覧になり、思い直してわざわざいを下すのをやめてくださいました。

☞ 荒布をかぶる: 黒い布をまとして深い悲しみ・嘆きを表すこと(ヨエル1:8)。断食をしたこともあわせて、この時ニネベの民がみな徹底的に悔い改めたことを示します(ヨエル2:12)。

☞ 獣・家畜も悔い改める? 動物がお祈りをするという意味ではないでしょう。ニネベが滅ぼされるとしたら、家畜もすべて滅ぼされるという考えから、動物も同様に荒布をまとわせ、餌を与えなかったのでしょうか。

□ポイント3 神さまは、ヨナに、神さまが人の命を大切に思っておられることを教えられました(4章)

ところがヨナは、神が選民であるユダヤ人以外の民にあわれみを注がれたことに対して、強い不満をあらわします。神はどんな人にも悔い改めて救われるようお願い、あわれみ豊かに私たちを待ってくださっています(エゼキエル 33:11、IIペテロ 3:9)。しかし、ヨナは心が狭く、偏った考えをもっていたのです。彼は預言どおりに神がニネベを滅ぼさなかったことに激しく怒っています。神は、それに対して「あなたのその怒りは、正当だと思っているのか?」と諭し気付かせようとされました。一方ヨナは、町を見渡せる場所に仮小屋を建てて40日そこにとどまり、神がニネベをどのように処されるかを見届けようとしました。神は、「とうごま」という植物で、ヨナを灼熱から守ることによって、彼を不機嫌から救おうとされました。ヨナはそれを喜びましたが、神の本来の意図には気が付きませんでした。そこでさらにヨナを訓戒するために、神は虫を備え、とうごまを枯らしてしまわれました。神は、ヨナが何の苦労もせず得た1本のとうごまと、神が労して生み育てたニネベの民の命とを対照しながら、ヨナを諭されました。ヨナがそのとうごまを惜しむのなら、まして神がニネベの民を惜しまないはずがあろうかと。神は私たちひとりひとりを創り、命を与え、育ててくださいました。だれもが神の目にはオンリー1の価値があり、大切なのです。神はどんな悪者も大切に思い、分け隔てなく、慈愛と忍耐と寛容を注いで下さるのです。

□結論 神さまはどんな人も悔い改めるように願っておられるのです 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

- 例1) 神さまのみことばに素直に従える人になろう。神さまはあなたに特別な計画・使命を与えてくださいます。そのとおりに歩む人になろう。たとえヨナのように失敗しても大丈夫だよ。みこころに従って歩む人を、神さまは必ず守ってくださいます。
- 例2) 神さまは、どんな人でも悔い改めて救われることを望んでおられます。神さまにとって、ひとりひとりの命が高価で尊いのです。あなたも、そのような神さまの愛の目線でお友だちを見れるようになります。それが宣教のスタートです。神さまが、どんな人でも救われてほしいと願っているから、私たちはその愛を伝えるのです。神さまの愛に感謝し、ヨナのように自分のことばかり考えるのはやめよう。
- 例3) あなたは、ヨナが魚のお腹の中に3日間いたことや、とうごまが短期間で大きくなったことを信じますか? 聖書に書いてあることを素直に信じよう! 何でもできる神さまをほめたたえよう! キミの身の回りにも奇蹟は起こるよ!